

音楽と図形の認識に関する基礎的研究

浅見英夫*, 井戸裕子**

(平成5年10月7日受理)

A Basic Study of Music and Figure Recognition

Hideo ASAMI* and Yuko IDO**

(Received October 7, 1993)

I. 研究の目的

平成元年新幼稚園教育要領が公布され、平成2年4月より実施された。この新教育要領では、保育内容を幼児期の発達の側面から5領域として示された。

旧教育要領では、小学校教科との関連を考慮して、健康、社会、自然、言語、音楽リズム、絵画製作の6領域として内容は示されていた。

しかし、新教育要領は前述したように旧教育要領のように、文化による領域区分ではなく、幼児期の発達の側面から次のように5領域として示された。

健康 この領域は、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う観点から示したものである。

人間関係 この領域は、他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う観点から示したものである。

環境 この領域は、自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にかかわる力を育て、生活に取り入れていこうとする態度を養う観点から示したものである。

言葉 この領域は、経験したことや考えたことなどを話し言葉を使って表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚を養う観点から示したものである。

表現 この領域は、豊かな感性を育て、感じたことや考えたことを表現する意欲を養い、創造性を豊かにする観点から示したものである。¹⁾

そこで、発達の側面という観点から、この5領域について検討し、その結果は、協同研究者と共に、第44回、

*音楽第2研究室 **造形教育研究室

日本保育学会において発表した。²⁾そこで5領域区分の基底は、からだ(感覚、身体、生理機能)、認識、表現の3分野の発達であることを指摘した。特に旧教育要領では、絵画製作、音楽リズムとして分けられていたものが、新教育要領では、劇表現もふくめて領域表現として、包含されている。

このことは幼児期の特性として、音楽と美術として明確に分化させないことが、幼児期の活動としてふさわしいと考えたことによるであろう。

しかしながらこのような幼児期の表現活動の考え方は、実践の場においては、とまどいのあることも事実である。

そこで、表現活動としての音楽と造形とのかわりについて検討するための基礎調査研究を行うことにした。

歌詞のない管弦楽からの図形の連想という方法を実施し、音楽と図形とのかわりについての基礎資料を得ようとした。

II. 研究方法

1. 図形としては、最も基本的な円、正三角形、正方形の3種類とした。

B5薄口画用紙の中央に円、直径9cm、正三角形、1辺9cm、正方形、1辺9cmをそれぞれ1枚にかいたカードを用意した。

2. 音等

①曲目の選曲理由

幼児には、やや難かしい楽曲であるが、耳にしたことの多い曲は、先入観があると思われるので、幼児のあまり知らないクラシック音楽から、協同研究者、浅見が選曲した。

1曲目は、正方形を想定し、ドヴォルザーク 交響曲

第9番「新世界」より第4楽章170秒、2曲目は、円を想定して、ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」110秒、3曲目は、正三角形を想定し、スメタナ「わが祖国」よりモルダウを110秒聞かせた。

②曲の間かせ方（演奏順序について）

1曲目は、はじまりがガッチリ、はっきりした音型なので、1番目に聞かせた。2曲目は、やわらかな音色の感じで、集中しないと聞きとれない程の静かさである。3曲目は、やや長めの序奏の後、テーマに入るが、その後は、動き、流れて行く曲であるので、この順序で聞かせた。

3. 対象

幼児：亀戸幼稚園5歳男児11名・女児11名、4歳男児5名・女児9名、3歳男児6名・女児5名、総合計47名。（男児22名・女児25名）

短大生：東京家政大学短期大学部保育科1年生116名（女性）

III. 研究の手続と結果

——幼児の場合——

1. 調査日：1992年1月31日（金）午前9時30分から12時50分
2. 調査場所：亀戸幼稚園3階和室8畳間（子ども達は今回はじめて入室する部屋である。通常は母親達に解放しているが、子ども達は入室しない場所である。）
3. 調査者：山内昭道（園長）・井戸裕子（対象児とは初対面である。）園長は、対象児を誘導し、調査場所内で同席して、子ども達の様子を観察する。調査準備と調査は、主に井戸が行った。

4. 手続

①園長が、各クラスで遊んでいる子ども達2名ずつに声をかけ、調査場所に誘導し、入室させる。

②机の上にB5の3枚のカードを並べてある所に、2名並んですわる様指示する。

③机の上に置いてあるB5のカードを示し、『これは、何のかたちですか』と各々1枚ずつ聞き、形の名称を正しく言えるか、答えを問う。

④『これから音楽をかけます。音楽を聞いて、丸に聞こえるか、三角に聞こえるか、四角に聞こえるか、聞いて答えて下さい。では、はじめます。』と言い、テープ

レコーダーで1曲目をかける。

⑤音量は、中（レベル3）で一定条件で行う。

⑥対象児2名が答えた後に、テープレコーダーを止める。2曲目のテープをかけ、答えが出た後にテープレコーダーを止め、3曲目のテープをかける。110秒から170秒間聞かせた。

⑦答えがない時は、『どの形ですか』と聞く。

⑧机にあるB5のカードを示しながら、『この形を使って、絵をかいて下さい。いちばんかきたい形がいいです。』と言い、カードを1枚選択させた。

⑨描材は、18色クーピーペンシルか16色サクラクレヨン（太巻）のどちらか好きな描材を選択させ、絵をかかせた。（調査場所で絵をかいていると、次の調査にさしきさるので、各自のクラスにもどってかく様に指示した。）

5. 結果

①曲と形との関係について

表1 「新世界」を聞いて選んだ図形と数値

曲目 年令	(ア) 交響曲第9番「新世界」より第4楽章					
	3才児		4才児		5才児	
形	♂(6)	♀(5)	♂(5)	♀(9)	♂(11)	♀(11)
○	66、6	20、0	40、0	44、4	27、3	64、5
○□			20、0			
△	16、7		20、0	11、1	18、2	18、2
□	16、7		20、0	33、4	45、5	27、3
□△○				11、1		
N		80、0			9、0	
合計(%)	100	100	100	100	100	100

(ア) 「新世界」の場合

- ・「四角」と答えた者を、年令別、男女別でみると、1位が5歳男児で、45.5%、2位は、4歳女児で、33.4%、3位は、5歳女児で、27.3%である。3歳女児は、「四角」と答えた者はいない。
- ・「丸」と答えた者をみると、1位3歳男児66.6%、2位5歳女児で54.5%、3位は、4歳女児で44.4%、4位は、4歳男児で40%と圧倒的に丸を感じ表現している。
- ・3歳女児は、無答80%と圧倒的に多くみられ、5歳男児の中にもわずかに9%無答がみられた。
- ・『音楽を聞いて、丸に聞こえるか、三角に聞こえるか、四角に聞こえるか、聞いて答えて下さい。』という質問に対しての答え方は、「丸」、「三角」と1つだけの形を答える者と、「丸・三角」と「四角・三角・丸」と2つ又は3つの形に答える者が結果からよみとれた。
- ・曲の中で四角を感じ答えた者をみると、1位5歳男児

45.5%, 2位4歳女児44.5%, 3位4歳男児40%となり, 年令が高くなるに従い, 想定した感じ方に近づいている。

- 1曲目は, 6パターンの答え方がみられた。

表2 「牧神の午後への前奏曲」を聞いて選んだ図形と数値

曲 目		(イ) 牧神の午後への前奏曲					
年令	形	3才児		4才児		5才児	
		男(8人)	女(6人)	男(6人)	女(9人)	男(11人)	女(11人)
	○	18、7	20、0	20、0	44、4	27、3	18、1
	○△			20、0			
	○○			20、0			
	△	50、0			22、3	27、3	45、6
	△○			20、0			
	△○△					9、1	
	△○○					9、1	
	□		20、0	20、0	33、3	18、1	36、4
	□○					9、1	
	N	33、3	60、0				
	合計 (%)	100	100	100	100	100	100

(イ) 「牧神の午後への前奏曲」の場合

- 「丸」と答えた者を, 年令別, 男女別でみると, 1位が4歳女児で44.4%, 2位は5歳男児で27.3%, 3位は, 4歳男児と3歳女児が各々20%である。
- 「三角」と答えた者をみると, 1位3歳男児50%, 2位5歳女児45.5%, 3位5歳男児で27.3%である。
- 2曲目で特徴的な答え方として, 4歳男児, 5歳男児に「丸・三角」, 「丸・四角」, 「三角・丸・三角」等2つ又は3つの答え方がみられ, 特に4歳男児80%, 5歳男児は, 45.5%が, 曲のどこかに丸を感じ答えた。
- 5歳女児・4歳女児・3歳児は, 「丸」, 「三角」, 「四角」と1つの形の答え方である。
- 2曲目は, 無答も含めて10パターンの答え方である。

表3 「モルダウ」を聞いて選んだ図形と数値

曲 目		(ウ) 「わが祖国」よりモルダウ					
年令	形	3才児		4才児		5才児	
		男(8人)	女(6人)	男(6人)	女(9人)	男(11人)	女(11人)
	○	18、7				9、1	
	○○			20、0	11、1	9、1	9、1
	○△					9、1	27、3
	○○○			20、0		9、1	9、1
	○○△			20、0		9、1	9、0
	△		40、0		33、3	9、1	27、3
	△△				11、1	9、1	
	△○				11、1		
	△□					9、1	
	△○△			40、0			
	△○○					9、1	
	□	66、8	20、0		22、3		
	□○				11、1		
	□△					18、1	9、1
	□○					9、1	
	N	18、7	40、0				
	合計 (%)	100	100	100	100	100	100

(ウ) 「わが祖国よりモルダウ」の場合

- 「三角」と答えた者を, 年令別, 男女別でみると, 1位が3歳女児40%, 2位は, 4歳女児33.3%, 3位は, 5歳女児27.3%であり, 上位3位は, 全員女児である。5歳男児にわずか9.1%「三角」と答えた者がいた。3・4歳男児には, 「三角」と答えた者は, 全くみられない。
- 3曲目のモルダウは, テーマのメロディが, 57秒後に出て来る為か, 3歳児は, 「丸」, 「三角」, 「四角」と1つの答え方であるのに比べ, 4・5歳では, 序奏の部分は丸に聞こえ, テーマ部分に入ると三角に聞こえ, 「丸・三角」, 「丸・四角」, 「丸・四角・三角」等々答え方のパターンは16パターンと1番多く, 感じ方の多様性がみられる。
- 答えの中に三角を感じ答えた者を, 年令別, 男女別でみると, 1位5歳男女共72.7%, 2位は4歳男児60%, 3位は, 4歳女児で55.5%である。

②曲を聞いて答えるまでの時間について

図1, 2, 3は3歳児, 図4, 5, 6は4歳児, 図7, 8, 9は5歳児, 参照

(ア) 「新世界」の場合

- 3歳児は, 30秒以内に答えた者は男女共にみられない。1番早い者で50秒で答え, 最もおそく答えた者は, 105秒後である。
 - 4歳男児は, 10秒, 17秒と特に早い答えが出た。50秒が最長である。男児Cは, 曲を聞き15秒目に「丸」と答え, そのまま聞きつけ35秒後に「四角」と答えた。この曲で「丸・四角」と2つの答え方をしたのは, Bのみである。
 - 4歳女児は, 男児ほどではないが, 早い者で25秒, 70秒が最長である。
 - 5歳男児は, 40秒から60秒台が最も多く, 5歳女児は, 5秒から65秒の間で答えた。31秒から60秒の間に答えた者は, 約81%で最も多い。
- (イ) 「牧神の午後への前奏曲」の場合
- 3歳男児は, 35秒から100秒以内に答え, 女児は, 34秒から110秒内で答えている。無答の場合110秒から170秒間聞かせた後, 中止した。
 - 4歳男児は, 14秒から50秒の間で答えている。女児は10秒から60秒以内で答え, 平均は, 44.3秒である。

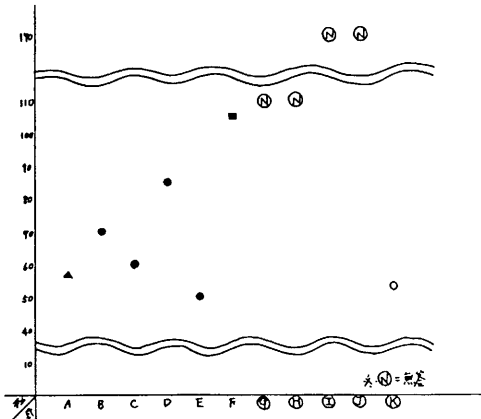


図1 「新世界」の反応時間と選択した形—3才児—
A~F男児(黒ぬり) ⑦~⑫女児(白ぬき)

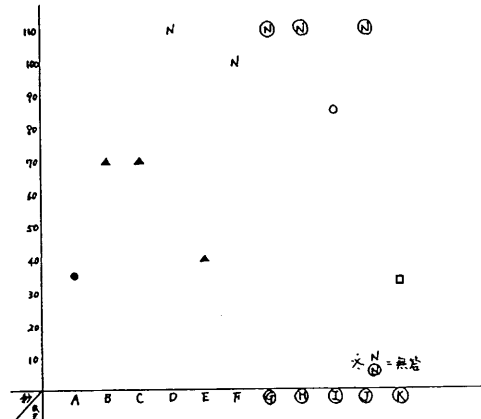


図2 「牧神の午後への前奏曲」の反応時間と選択した形—3才児—
A~F男児(黒ぬり) ⑦~⑫女児(白ぬき)

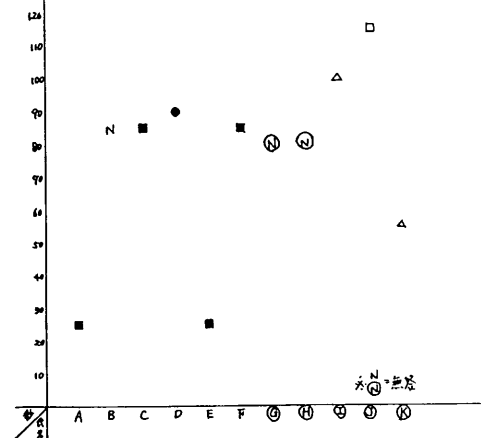


図3 「モルダウ」の反応時間と選択した形—3才児—
A~F男児(黒ぬり) ⑦~⑫女児(白ぬき)

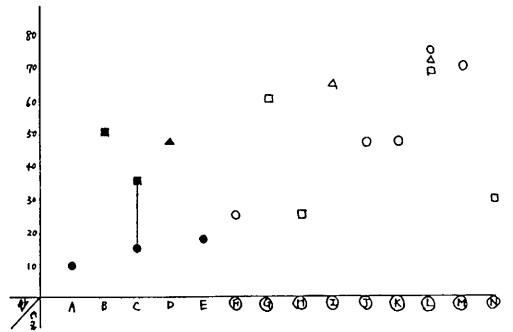


図4 「新世界」の反応時間と選択した形—4才児—A
~E男児(黒ぬり) ⑦~⑮女児(白ぬき)

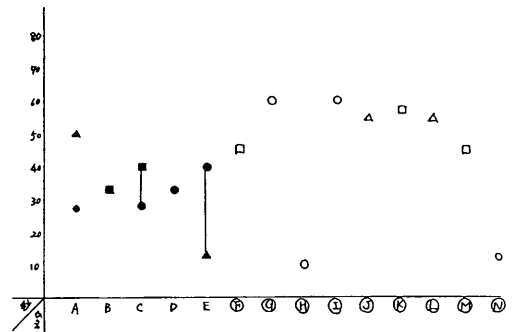


図5 「牧神の午後への前奏曲」の反応時間と選択した形—4才児—A
~E男児(黒ぬり) ⑦~⑮女児(白ぬき)

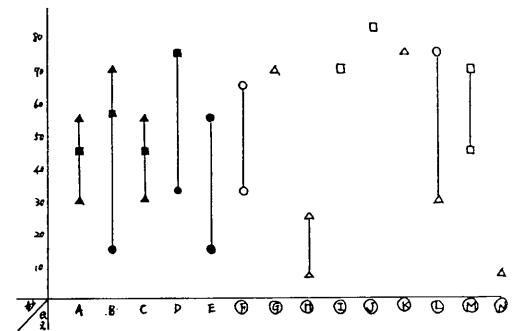


図6 「モルダウ」の反応時間と選択した形—4才児—
A~E男児(黒ぬり) ⑦~⑮女児(白ぬき)

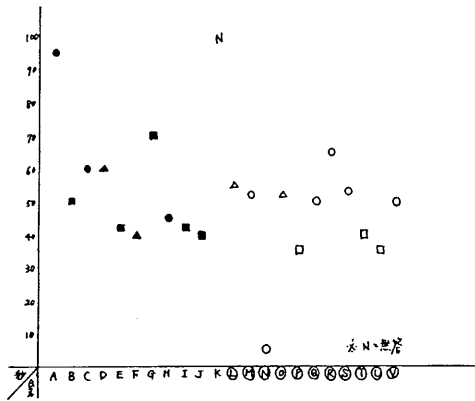


図7 「新世界」の反応時間と選択した形—5才児—A～K男児（黒ぬり）㉠～㉥女児（白ぬき）

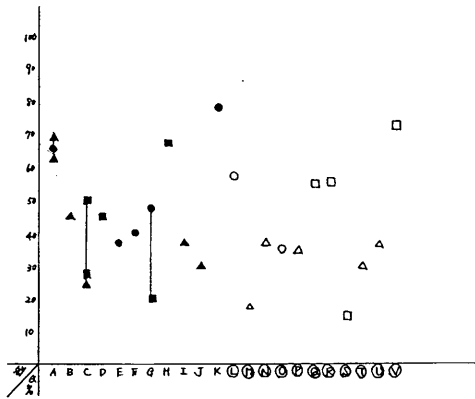


図8 「牧神の午後への前奏曲」の反応時間と選択した形—5才児—A～K男児（黒ぬり）㉠～㉥女児（白ぬき）

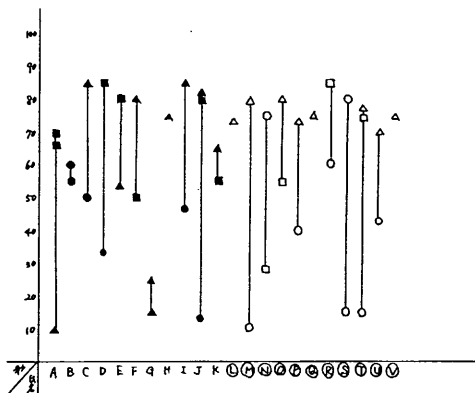


図9 「モルダウ」の反応時間と選択した形—5才児—A～K男児（黒ぬり）㉠～㉥女児（白ぬき）

- 4歳男児で、曲を聞き14秒目に「三角」と答え、そのまま聞きつづけ40秒後に「丸」と答えている。この様に2つに感じ答えた者は、3名である。
 - 5歳男児は、20秒後に答えた者、25秒、30秒、最長は、79秒後である。
 - 5歳女児は、15秒後に答えた者、17秒、30秒、最長は73秒後であり、平均的には、40.6秒である。
- (ウ) 「モルダウ」の場合
- 3歳男児では、25秒後に答えた者2名、最長は90秒後に答えた者である。平均は、51.6秒である。
 - 3歳女児は、55秒後に答えた者、最長は115秒後に答えた者と個人差が大きくみられる。
 - 4歳男児は、曲がはじまり15秒後に答え、そのまま聞きつづけ55秒後に答える様に、2つ又は3つの答え方をした。曲を聞き答えはじめの平均は、29.4秒である。
 - 4歳女児H子とN子は、7秒後に答えた2名である。この2名は、3曲とも早く答えているのが特徴的である。最長は82秒で、平均は46.4秒である。
 - 5歳男児は、10秒、13秒、15秒後に答えた者、最長は、85秒後である。
 - 5歳女児は、10秒、15秒、19秒後に答えた者、男児と同じく85秒後が、最長である。

表4 聴取した音楽をもとに選んだ図形と数値

形		□	○	△	合計 (%)
3才児	男	50、0	33、3	16、7	100
	女	40、0	40、0	20、0	100
4才児	男	40、0	40、0	20、0	100
	女	11、2	44、4	44、4	100
5才児	男	27、3	45、4	27、3	100
	女	0	100	0	100

③ 選択した図形と表現

表4、表5、図10参照

対象児47名中23名(48.9%)が、円を選び、次いで正方形は、10名(21.3%)、正三角形は、8名(17%)で未回収は、4歳男女共3名で合計6名(12.8%)である。

3歳男児以外は、各年令、男女共に円を選択した者が、圧倒的に多い。

—円を選択した者について—

人物の顔を表現した者は、23名中8名(34.8%)で、

3・4・5歳各年令にみられる。

月・太陽を表現した者は、6名(26.1%)で、5歳児

表5 聴取した音楽をもとに選んだ図形を使ってかいた絵の分類

3) 熊田の分類形式より

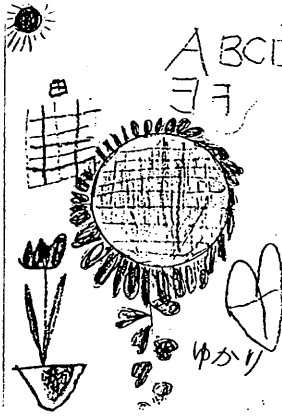
	3 歳 児		4 歳 児		5 歳 児		
	男 6人	女 5人	男 5人	女 9人	男 11人	女 11人	
円 か ら か い た 絵	1. 人物	顔①(体と手足)	顔①(体と手足)		顔①	顔⑤※C	
	2. 生物					パンダの顔③	
	3. 植物				ひまわり②※b		
	4. 食物						
	5. 建物・器物						
	6. 乗物・機械					時計①	
	7. 天体・気象					月②・太陽①	月①・太陽②
	8. 自然事象						
	9. テレビ・マンガ・キャラクター						
	10. 空想・想像						
	11. その他	円の中をぬる② ※a	円の中をぬる①				
正 三 角 形 か ら か い た 絵	1. 人物			胴②	胴①※f		
	2. 生物			キツネ①※e			
	3. 植物						
	4. 食物						
	5. 建物・器物					屋根①	
	6. 乗物・機械	ロボット①※d					
	7. 天体・気象						
	8. 自然事象						
	9. テレビ・マンガ・キャラクター						
	10. 空想・想像						
	11. その他		正三角形の中をぬる①			サンタクロースの帽子①	
正 方 形 か ら か い た 絵	1. 人物	顔①※g	顔①				
	2. 生物						
	3. 植物						
	4. 食物						
	5. 建物・器物				家①※h	時計①・家①※i	
	6. 乗物・機械						
	7. 天体・気象						
	8. 自然事象						
	9. テレビ・マンガ・キャラクター						
	10. 空想・想像						
	11. その他	正方形の中をぬる③	正方形の中をぬる①			正方形の中をぬる①	

※a. b. c. d. e. f. g. h. i は図10実例を示す。

37-a



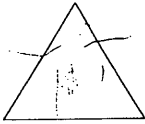
47-b



57-c



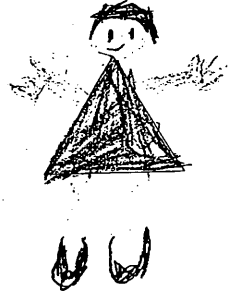
37-d



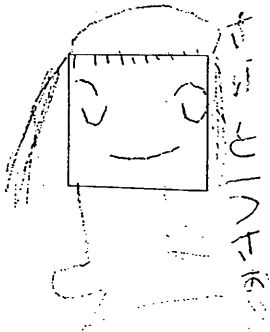
47-e



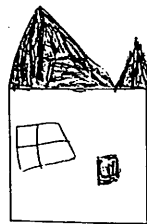
57-f



37-g



47-h



あっぱ

57-i

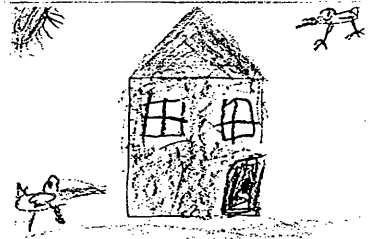


図10 聴取した音楽をもとに選んだ図形を使ってかいた絵の実例

のみである。

パンダの顔を表現した者は、3名(13%)で、5歳女児にみられる。

ひまわりを表現した者は、2名(8.7%)で、4歳女児にみられる。

時計を表現した者は、1名(4.4%)で、5歳男児にみられる。

円の中に色をぬる表現が、3名(13%)で、3歳男女共にみられ特徴的である。

—正三角形を選択した者について—

人物の胴体部分を表現した者は、8名中3名(37.5%)で、4歳女児2名・5歳男児1名にみられる。

キツネの顔・屋根・ロボット・サンタクロースの帽子が各々1名ある。

正三角形の中に色をぬる表現が1名(12.5%)で、3歳女児にみられる。

—正方形を選択した者について—

正方形の中に色をぬる表現が、10名中5名(50%)で、3歳男児3名、女児1名と5歳男児1名にみられる。

家を表現した者は2名で、4歳女児・5歳男児各々1名で、時計を表現した者も1名5歳男児にみられる。

顔を表現した者は2名(20%)で、3歳女児・4歳男児各々1名みられる。

—短大生の場合—

1. 調査日：1992年7月4日(土)、午後1時20分から1時50分、一斉に実施。
2. 調査場所：東京家政大学内5段講義室。
3. 調査者：山内昭道が実施・井戸裕子は、補助の役割。

4. 手続

- ①はじめにB6の記入用カード1枚を配布した。
- ②『これから音楽をかけます。音楽を聞いて、丸に聞こえるか、三角に聞こえるか、四角に聞こえるか、聞いて、カードに記入して下さい。』と、指示した後に曲を聞かせた。

③1曲目170秒、2曲目110秒、3曲目110秒間聞き、全員が記入終了後、次の曲に移った。

④音量は、中程度で一定条件で行った。

5. 結果

①曲と形との関係について

本調査を実施する前、協同研究者、保育者数名にプリ

テストを実施した結果、「新世界」「牧神の午後への前奏曲」「モルダウ」の3曲が、丸・三角・四角のどれに合うか考え、1曲に1つの形をあてはめて答えていた。

調査者の想定に近い結果を得たので、幼児に実施した。結果は、1曲の中に「丸・四角」「四角・三角・丸」などと2つ以上の形を聞き表現しているパターンが多く出た。

それでは、短大保育科1年生の場合は、どの様に聞き表現するか、幼児と同じ曲目を使用し、調査を行った結果は、表6、7、8の通りである。

(ア)「新世界」の場合

- ・1位は、正三角形37.9%、2位は、正方形31%、3位は、正三角形・正方形11.2%である。
- ・はじめに正三角形を感じ、曲が進むにつれて正方形や円と2つ又は3つの答えをした者は、58.6%である。
- ・はじめに正方形を感じ、曲が進むにつれて、正三角形と2つの答えをした者と、正方形と答えた者を加えると、37.9%である。
- ・はじめに円を感じ答えた者は、わずか3.5%である。
- ・1曲目の答え方は、13種類のパターンである。
- ・結果のよみとり方は種々考えられ特に、正三角形・正方形を感じた者を合計すると90.5%である。想定した形は、正方形であるが、短大生の多くは、角ばった感じを聞きとっていると考えられる。

表6 「新世界」を聞いて選んだ図形と数値

曲目(ア)	
学年	短1保
形	数(116人)
○	0、9
○△	0、9
○□	1、7
△	37、9
△□	11、2
△□△	2、6
△□□	0、9
△○	3、3
△○△	0、9
△○△○	0、9
△○△□○	0、9
□	31、0
□△	6、9
合計(%)	100

表7 「牧神の午後への前奏曲」を聞いて選んだ図形と数値

曲目(イ)	
学年	短1保
形	数(116人)
○	81、0
○○	0、9
○△	3、3
○△○△	0、9
△	5、2
△○	2、7
□	6、0
合計(%)	100

表8 「モルダウ」を聞いて選んだ図形と数値

曲目(ウ)	
学年	短1保
形	数(116人)
○	35、3
○△	2、6
○□	3、3
○□○	4、3
△	13、7
△○	5、2
△□	0、9
△□○	0、9
□	25、9
□○	2、6
□○□○	0、9
□△	0、9
□△○	2、6
□△○△○	0、9
合計(%)	100

(イ) 「牧神の午後への前奏曲」の場合

- 1位は、円81.1%，2位は、正方形6.7%，3位は、正三角形5.2%である。
- はじめに円を感じ、曲が進むにつれて正三角形と2つ以上の答えをした者は、81.6%と多くが、円を感じ表現した。
- 2曲目の答え方は、7種類のパターンの表われ方で、3曲中一番少ないパターンの表われ方の結果である。
- 想定した形は、円であり、想定した形に一番多く答えが集まった曲である。

(ウ) 「モルダウ」の場合

- 1位は、円35.3%，2位は、正方形25.9%，3位は、正三角形13.7%である。
- はじめに円を感じ答えた者は、45.5%で約半数が序奏の部分で円を感じ、テーマのメロディに入ると、正三角形や正方形などを表現した。
- はじめに正方形を感じ、曲が進むにつれて円、正三角形など2つ以上の答えをした者は、33.8%である。
- はじめに正三角形を感じ、曲が進むにつれて、円、正方形など2つ以上の答えをした者は、20.7%であり、正三角形を感じ答えた者は一番少ない。
- 想定した形は、正三角形であるが、想定とのずれが一番多くみられた曲である。
- 答え方は、14種類で3曲中一番多くのパターンが表われた。

IV. 3歳、4歳、5歳、短大生の比較考察

はじめに丸を感じ、曲が進むに従って三角に感じ「丸・三角」と2つの答え方や、「丸・三角・丸」と3つに答えたパターンが多種類にわたりみられた。そこで、はじめにどの様に聞こえたかの答えに注目し、「丸・三角」、「丸・四角」等々、答えが変化した者も含め、大きく、丸、三角、四角、無答にわけて示した結果は、図11、図12、図13の通りである。

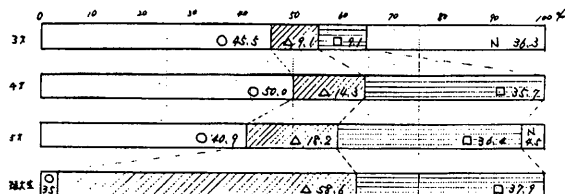


図11 「新世界」を聴取し、はじめに答えた形の分類

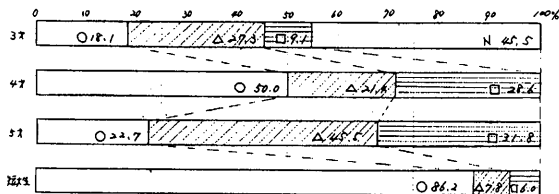


図12 「牧神の午後への前奏曲」を聴取し、はじめに答えた形の分類

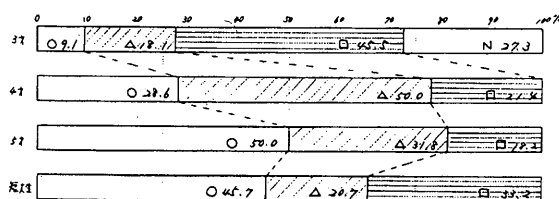


図13 「モルダウ」を聴取し、はじめに答えた形の分類

「新世界」は、四角を想定した。「四角」と答えた者を年齢別に比較すると1位は、短大生37.9%，2位5歳36.4%，3位は4歳35.7%である。

「丸」と答えた者は、4歳50%，3歳45.5%，5歳40%で約半数が「丸」と答えたのに対し、短大生は、わずか3.5%である。短大生の認識では、三角、四角が圧倒的に多く感じ答えた。

「牧神の午後への前奏曲」は、丸を想定した。「丸」と答えた者は、1位短大生86.2%，2位4歳50%，3位5歳22.7%である。

5歳は、「三角」45.5%答え、「四角」31.8%、「丸」を感じたのは22.7%である。

3歳は、この「牧神の午後への前奏曲」に無答が、45.5%と一番多くみられ、低年齢ほど答えが困難である事を示している。

「モルダウ」は、三角形を想定した。「三角」と答えた者は、1位4歳50%，2位5歳31.8%，3位短大生20.7%，3歳はわずか18.1%である。

3歳については、各曲に無答がみられた。2名の女兒においては、3曲とも無答であるが、音楽を聞いている様子は、楽しそうであった。

4歳については、「牧神の午後への前奏曲」と「モルダウ」は、各々50%想定通りの答え方がみられた。

5歳については、特に際立つことはないが、「新世界」にわずか1人(4.5%)無答があった。

短大生の場合、無答はなかった。

表現した答えの中に、想定した形を含んで答えた者を

選んでみる。

「新世界」の場合、曲のどこかに四角を感じ答えた者の1位は、短大生55.2%、2位5歳男児45.5%、3位4歳女児44.5%、4位4歳男児40%、5位5歳女児27.3%、6位3歳男児16.7%、7位3歳女児0%である。短大生の約半数は想定した形を感じ、聞きとっているが、幼児の場合半数以下である。

「牧神の午後への前奏曲」の場合、曲のどこかに丸を感じ答えた者の1位は、短大生88.8%、2位4歳男児80%、3位5歳男児45.5%、4位4歳女児44.4%、5位3歳女児20%、6位5歳女児18.1%、7位3歳男児16.7%である。短大生は約9割が想定した形を聞きとり、4歳男児8割が想定した形を聞きとっているのが特徴的である。3歳児でも数人は、想定した形を聞き表現している。この曲は、想定と合致したと考えられる。

「モルダウ」の場合、曲のどこかに三角を感じ答えた者の1位は、5歳男児72.7%、2位5歳女児63.7%、3位4歳男児60%、4位は4歳女児55.5%、5位3歳女児40%、6位短大生27.7%、7位は3歳男児0%である。幼児は、年令が高くなるに従い、想定した形を聞きとって表現しているが、短大生の場合、想定通りの答えをした者がわずか3割弱である。この曲は、短大生と調査者のずれの大きい事を物語っている。

V. まとめ

今回の調査から、音楽を聞いて、丸、三角、四角という形に置きかえて認識することが可能であることが確かめられた。

調査者は、1つの曲に1つの形を選択すると想定したが、調査結果は必ずしも一致しなかった。同じ音楽を聞いても、個人個人でその受けとめ方は、多様であることが確認出来た。想定通りに、1曲に1つの形を感じ表現し答えた者をみると、4歳女児9名中2名、5歳男児は、11名中1名、短大生は、116名中10名(8.6%)であった。

3歳児は、1曲に1つの形を感じ表現し答えていたが、想定した形を答えた者は、1、2名であった。3曲共に無答の3歳女児2名がいたが、調査中音楽を聞いている様子は楽しそうで、“丸かな、三角かな、四角かな”と考えながら聞いている様子であった。調査を終え、部屋を出て行く際に友達同志で顔を見合わせニコニコしながら

「おもしろかった」「またやりたい」と言ったのが印象的である。今回選んだのは管弦楽曲であり、幼児にとってあまり耳慣れない曲であると思われるが、『丸に聞こえるか、三角に聞こえるか、四角に聞こえるか』ということばかけにより、かなり意識を集中し、考えながら聞いていた様子が、伺われた。「つまらない、やりたくない」という幼児は、ひとりもいなかった。

4歳、5歳、短大生は、1曲に2つ又は3つの形を感じ表現した者が多く、調査者の想定とのずれの大きさを確認した。

今回選曲した3曲は、曲首からの抜粋であったため、調査者のねらっている旋律があらわれるまでに時間がかかったり、他の要素(旋律・リズム)が混っているため2つ又は3つの組合せパターンの答え方であっても、変化して行く音楽の流れに合わせれば当然と考えられる。

音楽が流動的であることを考えると、同じ型の主旋律部分だけを抜粋すれば、もっとはっきりした解答が得られたのかも知れない。

なお、データについては、特に幼児については少数であったので、調査人数を多くし又、統計処理をして客観的な結論を明らかにすることを今後の課題としたい。

謝辞

本研究の調査にあたり協力いただきました亀戸幼稚園の子ども達・保育者の皆様、本学保育科学生に対し感謝の意を表したい。

本研究は、平成2年度東京家政大学特定研究費の援助を受けた。なおこの概要は、日本保育学会第44回大会(1991年)、第46回大会(1993年)において発表した。

VI. 引用文献

- 1) 文部省：幼稚園教育要領 P.4, P.6, P.7, P.9, P.10フレーベル館1989.
- 2) 山内昭道, 熊田藤作, 浅見英夫, 井戸裕子, 齊藤尚子：幼児の認識と表現との相関についての研究1 P.342, P.343, 日本保育学会第44回大会発表論文集1991.
- 3) 熊田藤作：幼児の造形認識と表現 P.38, P.39, 日本美術教育研究紀要第25号日本美術教育連合1992.